

シングルインパチェンス インプレザ

学名: *I. walleriana*

種子粒数の目安: 1,250 から 2,150 粒/グラム

プラグ生産

ステージ 1 - 播種から幼根の発生まで (3 から 5 日)

- 培地はよく湿らせ、ほとんど飽和状態にする
- 覆土は不要。種子を沈めないよう注意する
- 発芽温度: 22 から 24°C
- 発芽には光が必要。1,000 から 4,000 ルクス(100 から 400f.c.)の照度で発芽が促進される
- 培地の pH を 6.0 から 6.2、EC 値を 0.75 mmhos/cm (2:1)で維持し、アンモニアの値を 10ppm 以下に抑える
- インプレザ(インパチェンス全般において)は、培地に塩類が多いと障害が現れるので注意する

ステージ 2 - ステムの形成と子葉展開まで (約 10 日)

- 幼根が展開したら水分レベルを下げる。培地をやや乾かし気味にすることで、良好な発芽メカニズムが遂行され、良質の根が形成される
- 地温を 22 から 24°Cの範囲で維持する
- 子葉が展開してから 2 週後に、HID ライトにより 4,500 から 7,000(450 から 700 f.c.)の照度で補光(12-18 時間/日)をすると、プラグ生産期間をいくぶん短縮することが可能である
- 培地の pH を 6.0 から 6.2、EC 値を 1.0 mmhos/cm (2:1)に維持し、アンモニアの値を 10ppm 以下に抑える
- 子葉が完全に展開したら、14-0-14 を 50-75ppm(N)の肥料を開始する(硝酸カルシウム/カリウムによる施肥でも可)
- 肥料の頻度は、かん水を 2、3 回のあとに肥料は与える

ステージ 3 - 本葉の展開と株の生育 (14 から 21 日)

- 過湿にせず、かん水の間は適度に乾燥させておく。しかし過度の乾燥は根の発育や植物の生育に影響が出るので注意する
- 地温を 20 から 22°Cの範囲で維持する
- 培地の pH を 6.0 から 6.2、EC 値を 1.0 mmhos/cm (2:1)に維持する
- 14-0-14 あるいは 20-0-20 の肥料を用い、100 から 150ppm(N)へ濃度を上げる(上記の肥料の他、硝酸カルシウム/硝酸カリウム系の肥料も可)
- 肥料の頻度は、かん水を 2、3 回のあとに肥料は与える
- 苗の徒長を防ぐ方法としては、夜間と昼間(朝、とくに日の出から約 2 時間)の温度差を利用した DIF を利用することが最も望ましい。矮化剤では、A レスト、ボンザイ、B ナイン等がインパチェンスに対する制御の効果が確認されている
- プラグ段階でのインプレザでは、矮化剤に対して、他の多くのインパチェンス(*Impatiens walleriana*)と同様の反応を示す

ステージ 4 - 移植直前まで (約 7 日)

- 前のステージ同様、培地は適度に乾燥させた状態を維持
- 地温は 17-18°Cに維持する
- 培地の pH を 6.0 から 6.2、EC 値を 0.75 mmhos/cm (2:1)に維持する
- 14-0-14 の肥料、あるいは硝酸カルシウム/硝酸カリウム系の肥料を、必要に応じて 100 から 150ppm(N)で与える

注意点: インパチェンスは肥料を多く必要とせず、低めないし中庸のレベルで維持する。過度に肥料を与えると、葉が多くなりプラグの段階で栄養生長へ入ってしまうので注意する

鉢上げから出荷まで

温度

- 夜間: 17 から 18°C
- 昼間: 18 から 24°C

照度

適度な温度が維持されているのであれ、照度のレベルはできるだけ高くする

用土

衛生的なピート主体の用土を用いる。用土の pH は 6.2 から 6.8、初期の養分は中庸(Medium)とする

肥料

- 肥料は、15-0-15 あるいは 20-0-20 を 150ppm(N)の濃度でかん水と交互に与える
- 電気伝導度(EC 値)は、1.0 mmhos/cm(1:2 抽出)前後の中庸を維持する

光条件

インパチェンスは強い日照は苦手、シェード条件下での管理が求められる。ハードニングが適正に行われている個体においては、朝方 4 時間くらいの日射しであれば問題はありません

草丈の調整

■ 鉢上げ後、根が鉢の内側面に触れるくらいまで達したら、水を限界まで抑えることで苗の丈を抑制することが可能である(矮化剤を用いない方法)

■ リン酸やアンモニウム態窒素を控えることで草丈を抑制することも可能(矮化剤を用いない方法)

■ インパチェンスは、昼間と夜間の平均気温の差を利用したDIFによく反応する植物で、ネガティブDIF(昼間<夜間)で草丈を抑えることが可能(矮化剤を用いない方法)

■ Bナインやボンザイ、スマジックなどが生長制御には有効にはたらく。これらの矮化剤の使用に関しては、注意書にしたがい、法令、省令等の定める範囲内で使用されなければならない。また、Bナインやボンザイによって、開花が遅れる可能性がある

■ インプレザは特徴的な株の構造をもっているため、他の一般的なインパチェンス(*Impatiens walleriana*)よりも、矮化剤の濃度や供与する頻度を低減することが可能である。生産に先立つ試験によって、最も効率的な矮化剤の濃度や頻度を、生産責任者が決定することが望ましい。

予想される一般的な病気や害虫

害虫: アブラムシ、スリップスなど

病気: ピシウム、リゾクトニア、ボトリティス、TSWV/INSV などの細菌・ウイルス感染による病気

その他: ホウ素欠乏や培地の pH の上昇にともなう生理障害

インパチェンスの場合、最も深刻な病気は INSV インパチェンス・ネクロティック・スポット・バイラスで、壊疽斑紋病と呼ばれるものである。これはスリップスを媒介して感染することが知られています。したがって、INSV の感染を防ぐにはスリップスの駆除が何よりも必定である

インパチェンスの栽培期間

播種から移植 (406 穴)	4 から 5 週
移植から開花 (10cm 前後のポット、カットパックなど)	5 から 6 週

注意点:

本資料をご使用いただくにあたっては、掲載されている数値等に関しては標準的な指針としてご利用ください。栽培期間等は、気候条件や生産地、生産時季やハウスの環境条件によって、異なることがあります

EC 値(電気伝導度)は、ビート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合もあります。